

## 建設産業情報（最近の動向）

在外公館名 在コロンビア日本国大使館

記入日 2015年 12月

### 1. 現地の建設・不動産市場に係る経済情報

資料名：コロンビア経済情勢

URL：<http://colombia.emb-japan.go.jp>

資料名：コロンビア国建設着工許可面積

URL：

<http://www.dane.gov.co/index.php/construccion-alias/estadisticas-de-edificacion-de-licencias-de-construccion-elic>

### 2. 建設業制度、入札契約制度、不動産業制度の改正動向

該当なし

### 3. 報道情報

	タイトル、概要	日付/掲載紙
1	第4世代道路網整備プロジェクト（4G） ANI（運輸省インフラ庁）は、第1段階のコンセッション契約のうち5つのプロジェクトで建設が開始された旨発表した。なお、第4世代道路網整備プロジェクト（4G）で建設が開始されたのは初めてである。	11月20日 当地紙報道
2	ボゴタメトロ整備計画 エンリケ・ペニャロサ次期ボゴタ市長（当館注：2016年1月1日からボゴタ市長に就任）は、2017年2月にボゴタメトロ整備に係る入札を行い、同年下期に建設を開始する旨発表した。なお、工期の短縮化及び予算の関係から地下ではなく高架式に計画を変更する方向で検討している。	11月26日 当地紙報道

3	<p>運輸マスタープラン</p> <p>コロンビア・インフラ会議所の定例総会において、コロンビア政府は運輸マスタープラン2015年～2035年を発表した。同プランは副大統領，運輸省，運輸省インフラ庁及びコロンビア・インフラ会議所がまとめたもので，毎年10.4兆ペソ（約32.5億ドル）の予算を必要とするものである。</p>	<p>11月23日</p> <p>当地紙報道</p>
---	---	----------------------------

4. その他我が国の建設産業界にとって参考となりうる最近の動向（報道情報以外）

<p>① 運輸マスタープラン</p> <p>コロンビア・インフラ会議所の定例総会において、コロンビア政府は運輸マスタープラン2015年～2035年を発表した。同プランは副大統領，運輸省，運輸省インフラ庁及びコロンビア・インフラ会議所がまとめたもので，毎年10.4兆ペソ（約32.5億ドル）の予算を必要とするものであり，同予算はコロンビアのGDPの1.3%程度である。</p> <p>同プランは陸，川，空等のあらゆる運輸手段の開発，発展を目標としており，具体的には101プロジェクトの幹線道路網（総距離12,681キロ），52プロジェクトの地方道路網（総距離6,880キロ），5プロジェクトの鉄道網（総距離1,769キロ），8プロジェクトの水運網（総距離5,065キロ），31プロジェクトの空港整備，太平洋及び大西洋側の港湾整備が組み込まれている。幹線道路網には，4Gで実施中の道路網は含まれていない。地方道路網は，各県が実施主体となるものであり，財務・公債省国家開発銀行（FDN）からの融資を想定している。</p> <p>② ボゴタメトロ整備計画</p> <p>現職のペトロ・ボゴタ市長は，環境，騒音，周辺不動産の景観悪化による価値下落を防ぐために地下方式にこだわり，メトロ整備計画を進めてきた。</p> <p>一方，エンリケ・ペニャロサ次期ボゴタ市長は，地下方式ではなく，予算の削減及び建設期間の短縮化が確実視される高架式にし，整備を推進する予定である。高架式での建設費用は5,000万ドル程度／キロに対して，地下方式ではその2倍になる。また，建設期間では地下方式の5年以上に対して高架式では2～3年程度で済むというメリットがある。</p> <p>FDNは，ボゴタメトロに係る建設方式が変わる可能性があること等からボゴタメトロに係る入札を2016年2月まで延期することを表明した。</p>
---